

ワレンの希望



— 希望 —

希望とは何でしょうか。そして皆様の希望は何ですか。皆様の希望が叶いますように、心を込めて祝福致します。

希望はいきなり出来たものではありません。聖三一教会の希望は、約150年前司祭ワレンから始まりました。司祭ワレンの希望はアメリカ聖公会から渡され、聖公会は2000年前イエス様から渡されました。そして、イエス様は初めに神様の夢から渡されました。今、皆様そして私たち聖三一教会の希望は「初めに神様の夢」渡された賜物だと信じています。

現在は夢のない、希望のない時代だと言われていますが、少しだけ、目線を回してみれば、希望は遠いところではなく、高いところでもなく、将来でもなく、今、ここ、皆様とともにあります。日常生活の中で、お互いに分かち合う挨拶の中で、そして聖三一教会を覚えて祈ってくださるその両手の中で。

聖三一教会はこれまでの信仰の先輩を覚えます。声なき人の声を聴き、おちおち語り合い、お腹いっぱい食べ合い、手をつなぎ、祈り合い、お互いに祝福の拍手をし合った今までの信仰の先輩たちから継承され、新しい一步を夢見ています。この「古き未来」に皆様を招待します。世界が作られたときから始まったそして司祭

ワレンと聖三一教会で咲き始めた「共に生きる」夢に招待します。この時代に生きている希望になりたいです。ハードルのない「祈りの家」となるのには皆様の参与が何より必要です。

この希望を支えられたのはこれまでの皆様の祈りのおかげです。これからの希望も皆様の祈りがなければ成り立てません。初めに始められた天の夢を共に夢見ませんか。皆様にとって聖三一教会はお互いの希望を支えあう「祈りの家」となりたいです。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

テサロニケの信徒への手紙一 5章 16-18節

今年聖三一教会の聖句です。そして信仰生活の目標です。皆様の日常生活でいつも喜び、祈り、感謝がたくさんありますように祝福致します。そして初めての神様の夢から海を渡って、山を登って、時を越えてワレンの希望に至るまで支えてくださった皆様に感謝します。そして聖三一教会の信徒に感謝します。そしてワレン司祭をはじめすべての聖職に感謝します。そしてすべての喜び、祈り、感謝の持ち主である神様に感謝致します。

司祭 アモス金 頭昇 The. Rev Amos Kim Duseung

表紙写真：新しい教会堂（左）、つむぎ（右）撮影：ご近所さん

地域運営推進会議報告

推進会議の目的

地域小規模児童養護施設つむぎが行っているケア内容を大阪聖三一教会、聖家族の家、地域の方々に具体的に明らかにすることで、施設内における抱え込みや独善性を解消する。その上で「つむぎ」が地域に開かれた施設であるということを伝えること。

第1回 2022年10月1日10時～11時30分

参加者

- ・町会から
南5北町会長 南5北女性部長
- ・近隣施設から
聖家族の家副施設長
- ・大阪聖三一教会から
司祭1名 信徒2名
- ・社会福祉法人博愛社から
副主任 施設長 つむぎ

○推進会議の内容

- ・つむぎの構成・行事が報告された。質疑応答では、携帯を持つルール、門限、職員の構成・ローテーションについて話がありました。

第2回 2023年3月4日10時～11時30分

参加者

- ・町会から
南5北町会長 南5北女性部長
- ・近隣施設から
聖家族の家副施設長
- ・大阪聖三一教会から
司祭1名 信徒2名
- ・社会福祉法人博愛社から
副主任 施設長 つむぎ

○推進会議の内容

- ・現状報告では、教会では、小学生が礼拝に出席、登山部と金剛山登山を計画していること。地域の行事では、PTA 花火大会、地域連合運動会に参加したこと、まだ、落ち着かない様子であることなどが報告されました。

第3回 2023年10月7日10時～11時30分

参加者

- ・町会から
南5北町会長 南5北女性部長
- ・近隣施設から
聖家族の家副施設長
- ・大阪聖三一教会から
司祭2名 信徒2名
- ・社会福祉法人博愛社から
副主任 施設長 つむぎ

○推進会議の内容

- ・現状報告
1年がたち端々で子供たちの成長を感じるようになったということでした。

建築献金のお願い

大阪聖三一教会では、引き続き
建築献金を募金しています。

皆さまのご支援に感謝いたします。

あと1,000万円！

どうぞよろしくお願いします。

教会・地域小規模施設建築費 募金中

献金目標 4,600万円

目標額まであと
1000万円

2024 年 3 月 31 日発行

社会福祉法人博愛社と教会・大阪教区 ～神様の子どもたちとして～

博愛社チャプレン 司祭 バルナバ 小林 聡

私たちはみんな神様の子どもです。イエス様はそのことを宣教するために生きられました。私は 2019 年 4 月から博愛社のチャプレンをさせて頂き、毎日子どもたちと遊ぶ恵みを頂いています。博愛社は 1890 年創立から 10 年後、それまで居た兵庫県を出て大阪での新しい歩みを始めた時に川口基督教会の宣教師ページ司祭が日曜学校を行い、こどもたちの祈りが今の聖贖主教会となり、今も毎週日曜日に子どもたちの礼拝が行われ、約 30 人の幼児・児童が礼拝に参加しています。最近たまに中学生や高校生が参加しますし、大人の方も参加してくださり、奏楽者も与えられ、こどもたちと喜んでいきます。

施設はその時代の社会のニーズに応じていく使命がありますが、教会はニーズそのものを掘り起こしていく役割があるような気がします。教会の機能として主教制がありますが、それを構成する主教、司祭、執事の中で執事という役割は社会の必要を教会に伝える使命があります。つまり私たちの教会はこの社会と一体であるということです。

日曜日、教会では私たちの交わりを心から喜び合い、神様からの祝福を受け、一週間の働きを労い合い、神の言葉と聖餐に養われながら、神様が共におられることを再確認して、この世に仕えるために再びこの世に派遣されます。それは絶え間ない神の国運動と言われます。つまりこの世に出て行き、また集められ、また出て行くのです。施設は教会のこのような動きの中から生まれて来たわけですが、施設のその働きや生活の中に、まさにキリストがおられることを教会は知らされるのです。ここにはダイナミックな教会理解があります。この世界全体を教会と捉えてみる見方です。すると目の前にあるすべての出会いが感謝に変わるような気がします。

そもそも神様は信仰の有る無しや、善行悪行によって、人を分け隔てしない方なので、すべての存在の中にキリストはおられます。そして特に私たちが弱さや小ささ、取るに足りないと感じることや、痛みを通して、神様の聖霊の働きが注がれることをイエス様は示してくださいました。博愛社のこどもたちは神様の子どもたちです。イエス様は子どもたちを真ん中に招き入れ、抱き上げて祝福されました。この神の国のビジョンを共に共有し、私たちがみな神様の子どもたちであることを味わえたらと思います。

全国から尊い献金・ご寄付をありがとうございます 感謝